



復興シンポジウム
「大震災から学ぶこと」

2011年7月16日
がん政策サミット2011

アンケート結果について

アンケートの概要

調査対象： 震災を経験したがん患者・経験者、家族・遺族
震災後に、がん患者さんやご家族の支援に関わ
られた方

調査方法： ウェブ調査（アンケート特設ページを設置）
※希望者にはアンケート用紙を配付し郵送にて回収した

調査期間： 2011年5月30日～6月27日

回答数： 31件

回答者の属性

立場

がん患者・経験者	23人
家族・遺族	3人
支援者	5人

性別

男	9人
女	22人

被災した時にいた都道府県

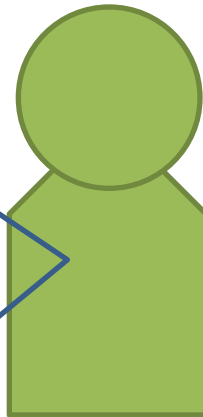
岩手県	1人
宮城県	24人
千葉県	2人
山梨県	1人
大阪府	1人
兵庫県	2人

現在の治療の状況

治療前	2人
治療を継続中	12人
治療が終わり	
経過観察や定期検査のみ	12人
緩和を中心としたケア	1人
無治療、休薬中	0人
治癒あるいは	
治癒に近いと思われる状況	1人
その他	3人

アンケートから見えてきたこと

被災直後

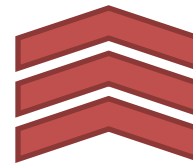
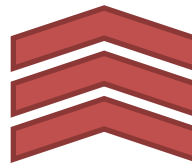


- ・がん医療に関する情報が無い(他院の情報)
- ・がん医療に関する相談ができない
- ・通院にかかる交通面の問題
- ・環境が変化したことによる問題(治療プラス疲労)
- ・薬の問題(紛失、入手困難)
- ・病院の機能低下(予約・検査・治療・不可能)

3ヶ月後



- ・かかりつけ医にかけられない
- ・心のサポート
- ・病院側の環境変化(紹介、担当)
- ・通院にかかる交通面の問題
- ・後遺症の悪化
- ・重症の方を優先して我慢
- ・気遣いがえられない



- ☆情報収集と伝播
- ☆ピア・サポート
- ☆気持ち切りかえ
- ☆自分自身でコントロール

- ✓意見をくみ上げる仕組み
- ✓ITの活用
- ✓自分自身で管理する力の強化(薬・検査データ・医療機関情報)
- ✓医療者へのオリエンテーション

- ☆ニーズを明らかにする
- ☆サロンなどでのサポート
- ☆訪問介護などのサポート
- ☆代替療法
- ☆受診ひかえる